

日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

件名	令和4年度第1回日光市公共施設適正化推進市民委員会会議		※12回目会議
日時	令和4年11月17日 13:30～14:30	作成日	令和4年11月17日
場所	日光市役所 本庁舎4階 中会議室401	記録者	資産経営課 福田
出席者			
<日光市> 資産経営課長：植木 資産経営課公共施設マネジメント補佐：高野 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー名簿別紙)	
議事内容			
<p>■配布資料 令和4年度第1回市民委員会会議次第、資料、名簿</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ（委員長） 「皆様、こんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。 日光市は、5市町村分の公共施設を抱えており、他市町村と比較しても桁が1つ違う状況となっています。これから公共施設をどのようにしていくのかを踏まえながら実績報告を聞き、委員の皆様のご意見をいただければと思います。皆様どうぞよろしくお願いたします。」</p> <p>3. 議 事</p> <p>○委員長 「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」</p> <p>(1) 令和3年度公共施設マネジメント計画実行計画（第1期）の進捗状況について 事務局より資料を用いて説明。</p> <p>○委員長 「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願いたします。」</p> <p>○委員1 「資料1の進捗区分について、評価区分・完了未着手は理解できるが、着手（事業）、着手（検討）というのがよくわからない。床面積を減らすという形が完了となるのか、建物の更新費用（維持管理費）がかからなくなったら完了なのか、伺いたい。」</p> <p>○事務局 「取組の内容・目標がそれぞれの施設で異なる。実行計画本体での記載になるが、複合化の検討や施設の廃止の検討、長寿命化の検討など施設ごとに目的と取組内容が異なることから、完了の形が違ってくる。」</p> <p>○委員1 「仮に、着手（事業）で改修工事をしても、完了しなければずっと報告書に残ることになるのか。」</p> <p>○事務局 「例えば長寿命化が目的の場合、長寿命化の工事が完了した時点で完了となる。また、施設廃止が目的の場合は、機能を廃止した段階で削減面積に反映する形となる。」</p> <p>○委員2 「学校などで統合が終わったら、完了という考え方になるのは理解した。では、2つの学校が片方の学</p>			

議事内容

校に集約された場合、もう1校はどのような形になるのか。統合という目標を完了はしたが、施設自体は残っている状況ではないか。」

○事務局

「学校の場合、統廃合の検討を開始したら検討、統廃合に着手したら着手、統廃合が完了すれば完了という表現になる。統合により廃校となった小百小学校を例に挙げると、実際には小百小学校施設そのものは残っているが、集約化という目標を達しており、普通財産（行政的機能を失った施設）となったため、削減した延床面積として計上した形になる。」

○委員1

「個々の施設によって完了の形が違うことは理解できた。長寿命化で完了になった場合は、面積は減らないということによいか。」

○事務局

「面積は減らない。施設として残ることになる。将来に残す施設については、計画的に長寿命化を行うことによって、維持管理コストを下げることになる。」

○委員1

「令和3年度実績を見ると、小百小学校の統合などあったがかなり苦労している様子を感じた。進まないのは何がネックになっているのか。また、床面積の20%を占めている市営住宅が進んでいない印象を受ける。1世帯がいるために残ってしまっている市営住宅があるのでは。処分できるものは処分することで市の財政に寄与させるべきでは。計画期間も残り少なく、本気でやる気があるのか伝わってこない。所管課との温度差を感じてしまう。」

○事務局

「学校統廃合や集会所の譲渡など、地元との協議により要望を丁寧に聞いていく必要がある。施設は市民のものであり、納得した形で進めなければならない。行政側の都合にもなるが、補助金を用いて建築すると、自由に用途を変えることもできなく、足かせになることがある。計画残り2年、今の段階で第2期実行計画の策定の準備段階に入っている。第2期については、より踏み込んだ形で強く推進できるような計画を考えていきたい。」

○委員3

「参考資料について、削減施設に対する金額的な実績がわかれば教えてほしい。マネジメントの計画は財政健全化が大きな目標だと思う。費用がどれだけ減っているのか成果を知りたい。建物が大きくても費用があまり減らなかったということであれば効果が少ないということになる。民間では金額ベースで考えることが多いので、把握しているのであれば伺いたい。」

○事務局

「現時点で集計を行っていない。第2期の実行計画を策定する中で、コスト調査を実施しているところである。第1期の計画の中でどれだけ減らせたかということをもとめお示ししたい。」

議事内容

○委員 3

「例えば、学校1つを廃校にしたことで、どの程度の費用対効果が出るのか数字で示すことができるのか。」

○事務局

「おそらく出せると思う。」

○委員 2

「純粋な費用対効果は難しいのではないか。例えば、教員の給与は県の方で出している。市が出しているのは、施設の維持管理費等であり、それほど大きな金額ではない可能性がある。」

○委員 1

「統合により廃校となった野口小学校、小百小学校、所野小学校の状況を教えてほしい。」

○事務局

「野口小学校は、民間提案制度により採択された事業者が、放課後の子供の受入やスポーツなどの事業を行えるよう準備を進めている。夏休みにはプレオープンし、来年度開始に向け協議をしている。所野小学校は、令和2年に募集したが提案がなく、令和3年度にも体育館を除いた形で募集したが採択した案件はなかった。小百小学校と足尾中学校に関しても、令和4年度に民間提案制度を用いており、現在調整中となっている。」

○委員 2

「完了した5つの保育園においても民間活力の導入とあるが、これは同じ民間提案制度を導入したものなのか。」

○事務局

「保育園の民間活力については、民間提案制度を導入したものではない。まず、清滝保育園は廃止。藤原と鬼怒川保育園で1つの保育園に統合、下原と高德保育園で1つの保育園に統合となり、統合前は市直営だったものが、民間が運営する保育園となっている。」

○委員 4

「資料2の3ページ、集会所等施設について、取組完了が13件と少なく、自治会への譲渡が進んでいない印象を受ける。集会所の譲渡については、市の改善のためには最重要課題ではないかと思う。提案になるのだが、進捗しないようであれば、関係する議員も交えて実施すればいいのではと思う。市議会からのこんにちはは第68回の中で、一般質問で質問があったのは生井議員だけである。なぜ話題が出ないのか疑問が残る。」

○事務局

「集会所については自治会との調整をしており、令和5年度までに協議することになっている。そのため、他の公共施設に比べ進捗はそれなりに進んでいると捉えている。」

議事内容

○委員 4

「小中学校施設の再編検討とあるが、なぜ進んでいないのか伺いたい。」

○事務局

「学校ごとに人口などの条件が異なり、優先すべきところとそうでない学校がある。この後検討する学校として掲げている。」

○委員 2

「今市・大沢・猪倉小学校は、それぞれ離れている。再編とはどういうことを想定しているのか。今市小学校を今市第三小学校に統合などか。」

○事務局

「複式学級の導入、児童がいなくなってしまう学校は統廃合の議論を行うことになる。」

○委員 2

「今市は近くに学校があるが、大沢・猪倉地域は他に学校がない。統合する場合は、例えば小中学校という形になるのか。」

○事務局

「長寿命化の施設に関しては、今後残る学校だろうと判断しており、統合による廃止を検討していない施設になる。今市小学校に関しては今後の人口動態を考えて、今市第二小学校、今市第三小学校に検討ということもある。」

○委員 2

「猪倉小学校はわかるが、大沢小学校はどうなるのか。」

○事務局

「これらの再編検討となっている施設については、次期の検討課題であり、これから検討の土台にあがってくるものと思われる。」

○委員 4

「幼稚園・保育園の人数を把握すれば、今後どの学校に何人が通うのか分かる。データを見た上で検討を進めればいいのか。地域との調整もあると思うが、早く解決に向かって取り組んでほしい。」

○事務局

「データの活用も含め、第2期実行計画の中で整理していきたい。議会との兼ね合いについては、令和4年度に公共施設のあり方を検討する特別委員会ができた。議会と行政が一体となって進めていく。」

議事内容

○委員 2

「市営住宅は完了1件とあるが、市営住宅は重要で面積が大きい。どのように具体的に進めているのか。」

○事務局

「考え方として、入居しているところは、残していくことになる。話はしているが、強制はできない。移転すると家賃が上がってしまうことも考えられる。」

○委員 1

「土地がもったいない。一等地の場合、駐車場としても使える可能性がある。市の財政としては、その方がよいのでは。」

○事務局

「指をくわえて待っているわけではない。やれることはやっているということでご理解いただきたい。」

○アドバイザー

「市民委員方に対し資料がわかりにくい印象を受けた。一番大事なところとしては、計画が順調に進んでいるかどうか分かるようにしなければならない。進んでいないのであれば、どう見直すのかに繋げていく必要がある。今回の報告は、8年間計画の内の6年間の実績であるため、単純に考えると75%達成していれば順調ということになる。しかし、現実には40%でかなり遅れてしまっているのではと感じる。」

「完了等の取り扱いが分かりにくいとの声には同意であり、計画に載せている施設258件を全て完了で達成ということになると捉えている。それで言うと、258件のうち48件しか完了していないのであれば、20%以下の進捗となり、計画の進捗もかなり遅れているのではと判断すべきと思う。」

「第1期の計画を総括して、第2期につなげていく流れになる。しかし、第1期計画の総括の部分が現在足りていなく、何が問題でこれからどうしていくのかを示し、分析・評価をしっかりしないと次の計画に繋がらない。あと1年あるので次の計画にどのように繋げていくのが重要となる。」

○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか…ご質問、ご意見等がないようですので、公共施設マネジメント計画実行計画（第1期）の進捗状況については以上といたします。」

○委員長

「以上で、本日用意された議題につきましては、終了とさせていただきます。進行につきましては事務局にお返しいたします。」

○事務局

「ありがとうございました。次第のその他の事項について、1件ご案内させていただきます。」

議事内容

4. その他

- ・事務局より第2回の会議開催時期について事務連絡。

○事務局

「では、以上を持ちまして令和4年度第1回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上